

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」
編集長・真鍋康利さん



我が桃源郷へ小旅行 楽しみ

先日同窓会があり、30人ほどが集まりました。札幌が中心ですが、道内や本州各地（最遠は広島）からもやってきました。

まだ現役バリバリが半数以上ですが、すでに退役して色々自適という人間も増えてきました。「来年定年。娘がまだ学校なので、次をどうするか思案中」と言う友人、「孫の相手が大きな喜び」と言う友人、学生時代落語研究会で活躍し、その後も落語を身近にしながら生きてきて、今が最も花開いた活躍をしている友人と様々です。

悠々自適組は、それぞれの趣味やかねての夢の実現に向け歩き出したようです。私は今の調子で「悠悠と。」をまだしばらく続けていくと宣言しました。

働く場、自分をいかせる場がある限り、そこで力を発揮して、世のため人のために頑張りたいですね。

○ ○ ○ ○ ○

今回はある親友の話です。彼はスーパーマンのように人を助ける仕事をしてきました。有能で、先輩に信頼され、後輩に慕われる好人物です。その彼が15年ほど前の現役時代、仲間2人と札幌から車で2時間半ほどのへんぴな山奥の土地を手に入れます。

た。

休日や非番の日には必ずそこへ行き、のこぎりやくわをふるって、木を切り、根を掘り起こして、平らな場所を広げてきました。最初はテントに寝泊まりし、次に小さな小屋、さらに数年後には立派な山小屋風の建物を自分たちだけの手で建てました。初期は電気や水道はなく、発電機を回し、水はふもとから運びました。

釣りは溪流釣りも海釣りも名人の域に達し、ギターを弾くなど多趣味・多才な人間で、こうした大工仕事や農作業も上手にこなします。

この山小屋を毎年友人らで訪れます。長時間たき火の世

話をし続ける人、料理の腕を振るう人、明るいうちから酒を飲み激論する後輩たちなど、おのおの様々な時間を過ごし、夜は星空とバーベキューを楽しみます。

○ ○ ○ ○ ○

私はカメラを手にとらふらするだけで、何も手伝いません。実はこれが大切で、彼らの領域を侵さないこと、仕事を邪魔しないことが、隅っこをお借りするものの務めなのです。

今年もこのコラムの出た週末にこの桃源郷を訪れます。今年にはピザ窯を導入し、おいしいピザとビールを楽しむ予定です。私にとつてつかの間の夏休み、この小旅行をとて楽しみに行っています。

今気がきました。彼と違って無趣味と言われる私にとつて、これが唯一の趣味なのかもしれません。